

色取月

いろどりづき

木の葉が色づくこと。「いろどるつき」とも言う。秋の空気は澄んでいて、いつそう鮮やかに見えます。畑でも秋の訪れを感じます。



八月末の台風襲来。発生した時点から全員で目標を定めて、台風対策に向けて動き出しました。年を重ねる度に得られた経験を活かし、台風に負けない農業を実践するのみです。

今月のことねぎ

今月、みなさまにお届けする九条ねぎが京都でどのように育ったものなのか、物語（事）を少しでも知っていただき、より美味しく召し上がっていただければと思います。

暑さにも台風にも負けない、夏葱のお届けです

6月に定植を行い、亀岡、美山、丹後で育った夏葱たち。定植時は本格的に暑くなる一歩手前、初夏の季節に植え付けを行いました。乾燥には強いねぎたちですが、生育に水分は必要であり、恵の雨がなかなか降らずに悩まされつつ、畑のねぎたちの顔色や様子を伺いながら生育管理しました。



食卓での「このねぎが美味しい」という瞬間のため、台風対策も実施し、みんなで守り抜いた夏葱をお客さまのもとへお届けいたします。

古都・事・言 3つの「こと」を伝えます
ことねぎだより

NO.208
2024年9月号
TEL: 075-601-0668



農人たちの畑での作業の様子、THE 農業！の現場の「こと」を発信

京都の真夏を乗り切る農人たち

今年の夏は、7月後半から酷暑になり、雨の少ない日も続き、外で作業を行う農人たちにとっても過酷で大変なシーズンとなりました。ねぎにとっても同じで、本来冬が旬のねぎも、この過酷な条件の中で耐えてくれています。成長しやすい環境下ではないので、農人たちもできる限り水やりや追肥（栄養剤散布）などを行いました。少しでも、ねぎの成長の一助となればと思います。日々意識して努力しています。また、今年から農人スタッフ全員は空調服を着用し、畑仕事を行っています。ファンの風があるだけで真夏で炎天下でも、身体の軽やかさが違います。毎年続けている、夏場のアイスの支給では、畑での休憩時に配布し、水分補給では得られない涼を得て、活力にしています。

台風にも脅かされるシーズン、歳を重ねて培ってきた経験を活かし、畑のねぎを守り、お客さまへお届けできるように努めます！

とある日の農人日記。

辛い仕事に進んで取組むことができる人が多い収穫班。多少の失敗は互いにフォローしながら、一日精一杯働き、夕方には汗まみれの笑顔で「お疲れ様！」と言えるだけで明日へのエネルギーの充電も進みます。（収穫班・井上）



アイスを食べて身体の内側から冷やす、束の間の休息。



こと京都は「野菜を食べてよう」プロジェクトのサポーター企業です

私たちは、農林水産省が実施している本プロジェクトの趣旨に賛同し、九条ねぎを通じて野菜の消費拡大に取り組みます。